

▼マヴィレット配合錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 グレカプレビル水和物/ピブレンタスビル Glecaprevir Hydrate/Pibrentasvir 【分類】 抗ウイルス化学療法剤 [HCV]

【単位】 ▼配合錠

【常用量】 ■C型慢性肝炎：1回3錠，1日1回，8週間 [前治療ありなら12週間]

■C型代償性肝硬変もしくはその他の型のC型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変：1回3錠，1日1回，12週間

【用法】 1日1回，食後

【透析患者への投与方法】 常用量 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量 (1)

【特徴】 グレカプレビルは NS3/4A プロテアーゼ阻害剤。ピブレンタスビルは NS5A 阻害剤。セログループ 1 (ジェノタイプ 1)，セログループ 2 (ジェノタイプ 2) のいずれにも適用可。

【主な副作用・毒性】

【安全性に関する情報】

【吸収】 空腹時投与で F 低下するので食後投与 (1)

【F】 資料なし (1)

【tmax】 Gle：3hr，Pib：4hr (1)

【代謝】 Gle：数種の代謝物が同定されているが，血中ではほぼ未変化体として存在。一部の代謝には CYP3A4 が副次的に関与 (1) Pib：ほとんど代謝されない (1)

【排泄】 Gle：糞便中に 92.1%が排泄され 22.6%が未変化体で，尿中回収率は 0.661% (1) Pib：糞便中に 96.6%が回収され，尿中には排泄されない (1)

【CL/F】 Gle：89.8±36.4L/hr，Pib：232±81.1L/hr (1)

【t1/2】 Gle：6～6.5hr，Pib 13～25hr (1)

【蛋白結合率】 Gle：97.5%，Pib：99.9%以上 (1)

【Vd/F】 Gle：953±404L/man，Pib：4800±1620L/man (1) いずれも BBB をほとんど通過しない (1)

【MW】 グレカプレビル 838.87，ピブレンタスビル 1,113.18

【透析性】 除去されないと思われる (5)

【O/W 係数】

【相互作用】 アタザナビル，アトルバスタチン，リファンピシムと併用禁忌 (1) グレカプレビルは P-gp，BCRP，OATP1B1/1B3 の基質で，阻害剤 (1) ピブレンタスビルは P-gp の基質で，P-gp，BCRP，OATP1B1 の阻害剤 (1)

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】 20191207

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。